

株主通信

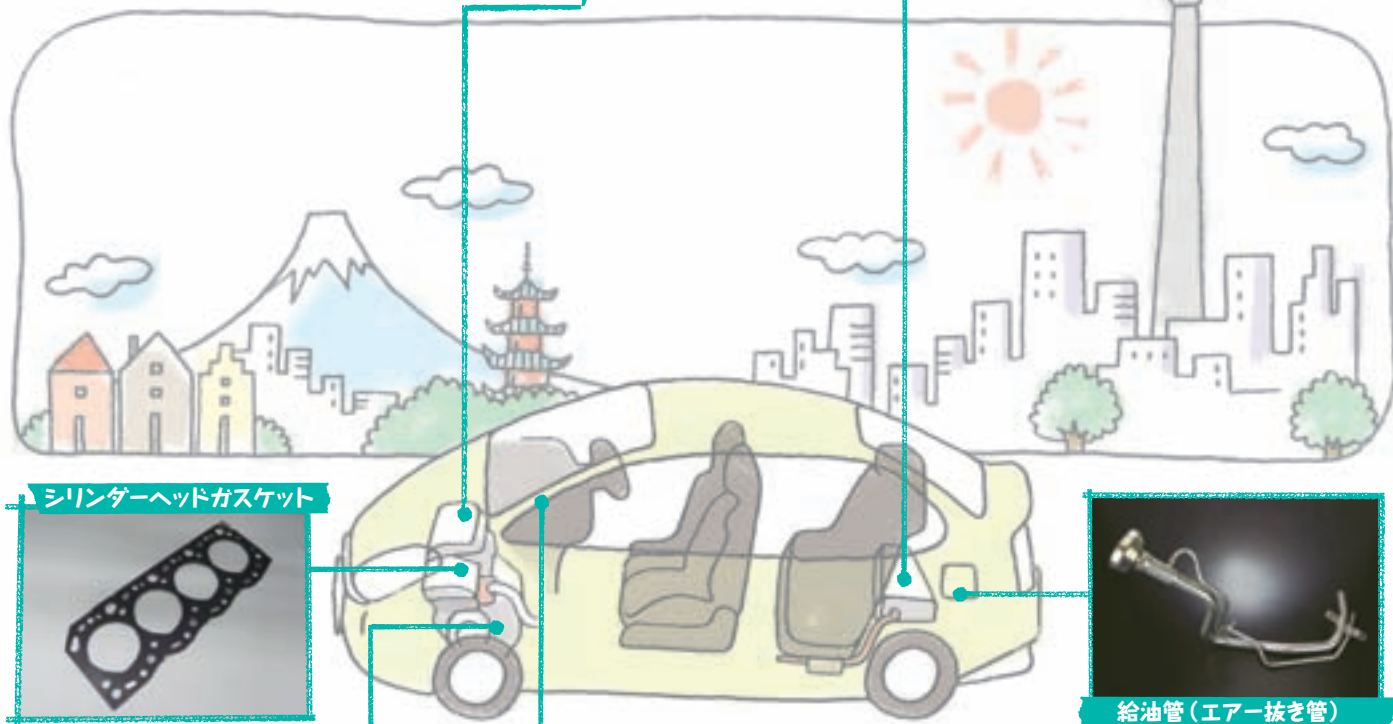
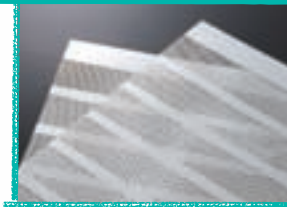
第115期 報告書

2011.4.1 >>> 2012.3.31



フューエルインジェクション

ハイブリッドカー用ニッケル水素電池負極板



シリンダーヘッドガスケット



トラックオイルフィルター



ドアシール用ウェザーストリップ



給油管(エア抜き管)

自動車にも東洋鋼鋳の技術が!

ハイブリッドカー用電池部品・燃料パイプ・マフラーなどの車のパーツも東洋鋼鋳の製品でつくられています。

鉄にこだわる表面処理鋼板のパイオニア

当社の製品は私たちのくらしの身近なところで活躍しています。

“鉄”とともに歩み続けてきた東洋鋼鈹はこれまでさまざまな製品を世に送り出してきました。今日ではその伝統で培った、圧延、表面処理、ラミネートなどの技術をもとに“鉄”から“非鉄”や“樹脂”へと自らのフィールドを拡大しています。

圧延
当社の
コア技術
表面処理 ラミネート

日本で民間初のぶりきメーカー

その他材料

- 梱包資材用帯鋼
- 機械器具
- 耐食・耐摩超合金



射出成形機部品 (耐食・耐摩超合金)

電気・電子部品材料 自動車・機械部品材料

- ニッケルめっき鋼板
- 電気垂鉛めっき鋼板



電池缶 (ニッケルめっき鋼板)

機能材料

- 磁気ディスク用アルミ基板
- 光学用機能フィルム



デスクトップパソコンハードディスク
(磁気ディスク用アルミ基板)

缶用材料

- ラミネート鋼板
- ぶりき
- ティンフリースチール



飲料缶 (ラミネート鋼板)

建築・家電用材料

- 樹脂化粧鋼板
- 植毛鋼板
- 銀鏡めっき金属板



ユニットバス壁材 (樹脂化粧鋼板)

当期のポイント

● **売上高** 113,942百万円
(前期比 4.4%減)

● **営業利益** 3,926百万円
(前期比 44.8%減)

● **経常利益** 4,195百万円
(前期比 40.9%減)

● **当期純利益** 3,156百万円
(前期比 8.7%減)

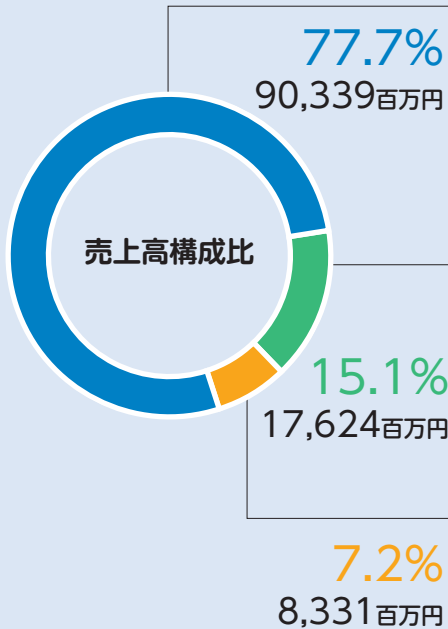
POINT ① 輸入鋼材の急増や製造業の海外生産シフトによる国内市場の減少など極めて厳しい状況

POINT ② 鋼板関連事業は第2四半期以降需要が伸び悩む

POINT ③ 機能材料関連事業は急激な為替変動の影響を受ける

POINT ④ その他事業は市場価格が下落

セグメント情報



鋼板関連事業



事業内容

缶用材料、電気・電子部品、自動車・産業機械部品、建築・家電向け材料の製造および販売

事業の概況

- 飲料缶材は、需要が伸び悩み、工業用缶材は、塗料・化学関連需要の低迷が続く。
- 電気・電子部品向けは、EU、北米などの需要が落ち込む。
- 自動車・産業機械部品向けは、前期割れとなり、建築・家電向けは、家電分野商品は大きく低迷。

機能材料関連事業



事業内容

磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルムの製造および販売

事業の概況

- 磁気ディスク用アルミ基板は、生産は回復したものの、急激な為替変動の影響を受ける。
- 光学用機能フィルムは、フラットパネルディスプレイ関連の市場において着実に浸透し、数量は増加。

その他事業



事業内容

梱包資材用帯鋼、機械器具、硬質合金の製造および販売

事業の概況

- 梱包資材用帯鋼は、市場価格が下落。
- コイル結束装置などの機械器具は、装置本体が好調。
- 硬質合金は、主力の射出成形機部品の需要が低調に推移。

なお、各事業の売上高は事業間の取引による金額を含んでおります。



ごあいさつ

株主の皆さまには平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第115期報告書をお届けするにあたり、当社グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

代表取締役社長

田中厚夫

鋼板関連事業の体質強化が急務 次世代につながる研究開発に注力します

Q 当期の経営成績について
ご解説ください。

A 主力の鋼板関連事業の不振が響き、
遺憾ながら減収減益となりました。

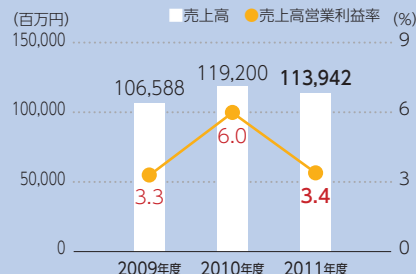
国内経済は依然として予断を許さない状況が続いており、鉄鋼業界でも、円高の急伸や製造業の海外生産シフトに伴う国内市場の縮小など、厳しい状況が続きました。このような環境の中、当期の連結経営成績は、売上が1,139億42百万円（前

期比4.4%減）、営業利益39億26百万円（前期比44.8%減）、経常利益41億95百万円（前期比40.9%減）、当期純利益31億56百万円（前期比8.7%減）となりました。

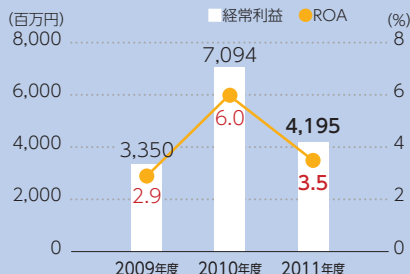
減収減益の最大の要因となったのは、主力の鋼板関連事業です。今年は電機業界で大規模な企業再編や海外への生産シフトが相次ぎましたが、当社はこうした急激な変化への対応が遅れ、大変な苦戦を強いられてしまいました。もちろん、東日本大震災による需要の落ち込み、為替変動など厳しい事業環境であった

財務ハイライト

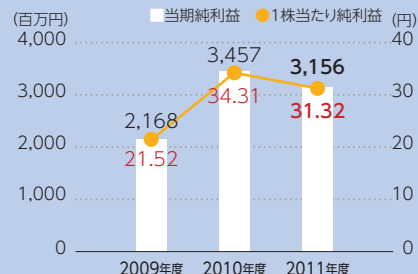
連結売上高／売上高営業利益率



連結経常利益／ROA



連結当期純利益／1株当たり純利益



ことは確かですが、ここ数年当社は、外的要因の変化にも十分に対応できる柔軟で強靱な事業基盤を構築しようと懸命に努力してきてだけに、当期の結果は非常に残念であり、大きな反省材料であると捉えています。

Q 来期の事業計画をお聞かせください。 A 鋼板関連事業の立て直しに注力し、 当期の落ち込みを1年で取り戻します。

来期はとにかく、鋼板関連事業の立て直しを果たさねばなりません。当期の落ち込みは絶対に1年で挽回してみせるとの強い覚悟のもと、組織を大幅に改正しました。幸いにも市況はそろそろ回復してきそうですし、製造部門はすでに強靱な収益体質を誇っているのですから、営業部門の意識改革さえうまくいけば、必ず挽回できるはず。このほかトルコで設立した合併会社（※8ページ参照）を順調に立ち上げること、バイオチップの事業化に向けた取り組みの継続なども、来期の大きなテーマになります。

来期の連結業績については、売上高が1,228億円（前期比7.8%増）、営業利益61億円（前期比55.4%増）、経常利益62億円（前期比47.8%増）、当期純利益40億円（前期比26.7%増）と予想しています。

Q 今後の事業戦略をお聞かせください。 A 数値目標の達成は困難な状況ですが、 最後まで全力を尽くします。

当社は現在、2010年度から2012年度までの中期経営計画「STEP UP 100」に取り組んでいます。最終年度である2012年度の損益目標として連結売上高1,280億円、営業利益90億円を掲げていましたが、これに関しては残念ながら達成は困難

な情勢であると言わざるを得ません。しかしこの目標を撤回はせず、最後まで少しでもこの水準に近づけるよう、努力し続けたいと考えています。

中期経営計画で掲げた事業戦略そのものに大きな変更はなく、最終年度も引き続き、既存事業の改革に加え、新規市場の開拓や新規事業の創出に取り組んでいきます。とくにライフサイエンス分野では、先ほどご紹介したバイオチップ以外にも複数の研究開発が進行しており、いずれはこの分野だけで年間100億円規模の事業に育てたいと考えています。既存事業の強化に向けては、鋼板の用途開発に取り組んでおり、極めて反射率の高い銀鏡めっき金属板「ミラーコートK」を建物の照明などに提案しています（※7、8ページ参照）。今後はさらに、農業分野などにも応用すべく、大学などと共同研究を進めています。

Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。 A グローバルに通用するブランド商品を通じて社会への貢献を果たしてまいります。

当期末の配当金につきましては、前年同期と同額の1株当たり4円とさせていただきます。中間配当金4円と合わせ、年間配当金も前年と同額の1株当たり8円となります。

東洋鋼鈹はここ数年、新たな時代の到来を見越して様々な可能性の種を播いてきました。その種が少しずつですが確実に芽を出し始め、いくつかは早くも花を咲かせようとしています。必ずしも鉄鋼分野だけにこだわらず、グローバルに通用する当社だけのブランド商品を世に送り出し、従来以上に社会に貢献できる企業を目指し、今後も精一杯の努力を続けてまいります。

株主をはじめステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

株主さまの声

第115期中間報告書において株主の皆さまにアンケートをお願いしましたところ、287名の方からご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。一部ではございますが、株主の皆さまからのご意見・ご感想を紹介させていただきます。

最終年度を迎えた中期経営計画の進捗状況を教えてください。

(富山県 40代男性)

2010年度から、100周年に向け高い目標を掲げ、3か年の中期経営計画『STEP UP 100』を策定し、将来におけるありたい姿と経営理念の実現に向け、経営資源を投入し、目標達成に邁進してまいりました。その2年目における取り組み成果をご報告するとともに、最終年度の目標達成へ向けた取り組みをご説明します。

中期経営計画 [STEP UP 100]

事業戦略

既存事業の開発・提案型組織への転換

新規市場開拓および新規事業創出

各セグメント別の戦略

鋼板関連事業

- 環境関連、エネルギー分野への事業領域拡大
- 中国販売子会社を中心とした営業・生産拠点の拡大による多面的事業展開
- 東洋製罐グループ企業との連携による飲料缶の海外市場獲得

機能材料関連事業

- フラットパネルディスプレイ向け光学用機能フィルムの事業規模拡大
- 磁気ディスク用アルミ基板のモバイル市場参入

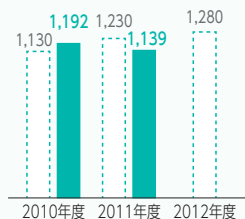
その他事業

- 機械事業における顧客ソリューションビジネスの展開

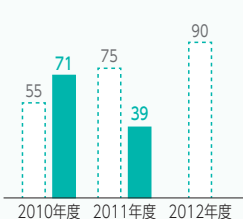
中期経営計画目標値と実績

□計画 ■実績

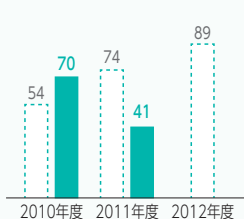
売上高(億円)



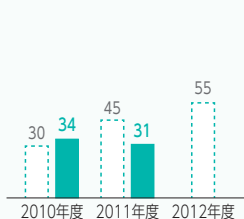
営業利益(億円)



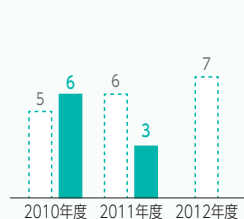
経常利益(億円)



当期純利益(億円)



売上高営業利益率(%)



2010年度レビュー

既存事業の開発・提案型組織への転換

- ◆ 顧客のニーズに迅速に対応できる開発型・提案型の組織への転換

新規市場開拓・新規事業創出

- ◆ 中国拠点の開拓
- ◆ 環境・エネルギー分野への事業領域拡大

2011年度レビュー

新規市場開拓・新規事業創出

- ◆ 中国拠点の強化
- ◆ トルコに合弁会社を設立

2012年度重点施策

経営のグローバル化に向けた体制づくりの強化

主力の鋼板関連事業における新たな用途の開発

新規事業の更なる育成



以前、株主通信でCIGS太陽電池※用低コスト金属基板を開発し、2011年ごろの製品化を目指していたが、その後どうなったか教えてほしい。

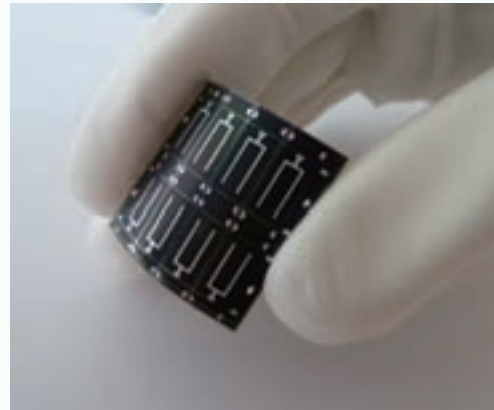
(東京都60代男性)

当社と独立行政法人産業技術総合研究所は、低コストの金属基板を用いて、太陽電池として需要が拡大しているCIGS太陽電池用基板を開発しました。

昨年は巾広材の要求に対応するため、既存設備の改造を行いました。遅れておりますが、複数の企業様にサンプルを提供し、開発を進めています。市場は拡大する予想ですので、2013年度早期の市場参入を目指して、生産技術の見直しも行いながら、製品開発を進めております。

さらに、引き続き独立行政法人産業技術総合研究所との共同研究を通して、基板の機能向上に向けた技術開発も行っていますので、今後の展開にご期待いただければと思います。

※ CIGSとはCu,In,Ga,Se(銅、インジウム、ガリウム、セレン)の4つの元素の頭文字をとったものです。CIGS太陽電池は主流である結晶系シリコンの代わりに、この4つに代表される元素を混ぜ合わせて使用しています。CIGS太陽電池は現在市販されている薄膜系太陽電池の中で最も変換効率が高いほか、経年劣化がなく長期信頼性に優れています。



セラミックス基板を用いたフレキシブルCIGS太陽電池

ホームページがかわいい。

(宮崎県30代女性)

当社のホームページは、初めて見た方には親しみやすく、よくご覧いただいている方にも十分な情報をご提供できるよう工夫しています。

まずトップページでは、絵本のイラストに表示されている虫めがねマークをクリックすると、当社の主な製品をご覧いただくことができます。また「身近な東洋鋼鉄」では、暮らしの中で活躍している製品の詳細や用途・使用事例のご紹介をしています。「東洋鋼鉄のあゆみ」では、75年を越える当社の歴史を写真とともにご覧いただくことができます。この他にもIR情報や採用情報、会社の概要等、できるだけ多くの情報を皆さまにご提供できるよう、今後も随時更新してまいります。



△トップページ

東洋鋼鉄のあゆみ▷



<http://www.toyokohan.co.jp>



TOPICS

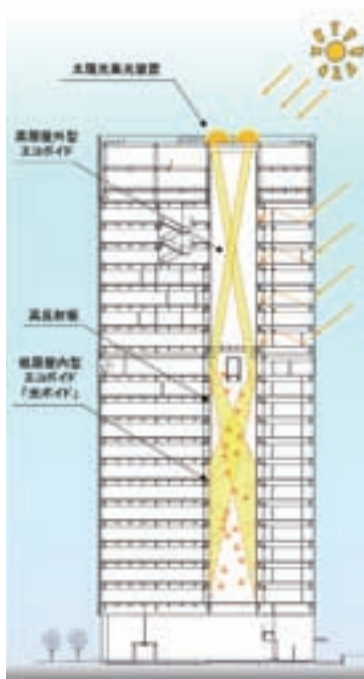
建築・建材展に出展

3月6日～9日、東京ビッグサイトで開催された建築・建材展に出展し、当社の技術力をアピールしました。

関係者や来場された方々にご好評いただいた製品の一部をご紹介します。



(仮称)光ボイド



(仮称)光ボイド
竹中工務店・東洋鋼板共同開発

『光ボイド』は、反射率95%以上の銀鏡めっき金属板「ミラーコートK」を用い、(株)竹中工務店殿と共同開発した大型の光搬送システムです。建物中央の吹抜けに設置し太陽追尾型集光装置との組み合わせにより、効率良く光を床面まで採り込むことが可能です。

この度、東洋製罐(株)殿の新社屋に採用された光ボイドは日中は自然光、夜間は周囲の人工照明により、吹抜けの100m下まで明るく均一な光環境を実現しています。



SetsuDen ミラー

「ミラーコートK」を使用した高天井用反射笠『SetsuDenミラー』は、従来の反射笠に比べて極めて照明効果が高く、最大72%もの節電効果が得られるという事例がありました。電力不足が懸念される夏に向けて、我慢しない節電「スマート節電」に貢献します。



どこでも光窓

『どこでも光窓』は、「ミラーコートK」で製作したダクトで、反射を利用して太陽光を窓のない部屋や地下に搬送するシステムです。日中であれば、停電時においても室内や通路の明るさを確保できるため、省エネ・環境対策だけではなく、安全・防災対策としても注目されています。



ファイバーコート

「ファイバーコート」は静電植毛を施した鋼板で、保水・吸水性、意匠性に優れた高機能植毛鋼板です。代表的な用途としては駅のホーム屋根材、ビルや店舗の空調ダクト、パネルヒーターなど、建材から家電製品まで多岐にわたっています。



トルコに合併会社を設立

4月3日、当社はトルコ共和国で製鉄業を営むトスヤル・ホールディングと合併会社を設立しました。

トルコは地政学上の優位性が高い東西交易の要であり、日本企業の進出も相次ぐなど最も注目を集めている国のひとつです。

この度設立した合併会社では、トルコ市場において継続的な成長が期待される冷延鋼板および表面処理鋼板等の製造・販売に関する事業化の検討を進めています。現在、4名の社員がイスタンブールに滞在し、トルコ全エリアの顧客候補企業を訪問し、詳細な市場調査を実施しています。

●会社概要

商号	Tosyalı Toyo Steel Co., Ltd.
代表者	ファット・トスヤル
所在地	トルコ共和国イスタンブール市
設立日	平成24年4月3日
事業内容	詳細事業化調査の実施、事業化に関する許可申請など なお、事業化の場合、本合併会社が事業会社となる
従業員	20名程度
資本金	1,000万USドル、設立時250万USドル
出資比率	当社49%、トスヤル社51%



CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENT

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2012年3月31日現在	2011年3月31日現在
資産の部		
流動資産	65,194	66,090
固定資産	55,795	54,978
有形固定資産	47,778	47,347
無形固定資産	533	615
投資その他の資産	7,483	7,015
① 資産合計	120,990	121,068

科 目	当 期	前 期
	2012年3月31日現在	2011年3月31日現在
負債の部		
流動負債	33,605	40,908
固定負債	7,996	2,728
② 負債合計	41,602	43,636
純資産の部		
株主資本	78,892	76,542
その他の包括利益累計額	△ 834	△ 624
少数株主持分	1,330	1,514
③ 純資産合計	79,388	77,432
負債純資産合計	120,990	121,068

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2011年4月 1日から 2012年3月31日まで	2010年4月 1日から 2011年3月31日まで
売上高	113,942	119,200
売上原価	99,218	101,690
売上総利益	14,723	17,509
販売費および一般管理費	10,796	10,394
営業利益	3,926	7,114
営業外収益	731	463
営業外費用	462	483
経常利益	4,195	7,094
特別損失	—	1,444
税金等調整前当期純利益	4,195	5,649
法人税等	1,112	2,170
少数株主損益調整前当期純利益	3,082	3,479
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 73	22
当期純利益	3,156	3,457

POINT

【資産の部】①

総資産は、前期に比べ78百万円減少して、1,209億90百万円となりました。このうち流動資産は現預金が減少したこと等により、前期に比べ8億95百万円減少しました。固定資産は、有形固定資産、投資有価証券が増加したこと等により、前期に比べ8億17百万円増加しました。

【負債の部】②

負債は、未払法人税等の減少等により、前期に比べ20億34百万円減少して416億2百万円となりました。

【純資産の部】③

純資産は、前期に比べ19億56百万円増加して793億88百万円となりました。これは利益剰余金が増加したこと等によるものです。

CORPORATE PROFILE & STOCK INFORMATION

会社概要／株式の状況
(2012年3月31日現在)

会社の概況

商号 東洋鋼鋳株式会社
 本社 東京都千代田区四番町2番地12
 設立 1934年4月11日
 資本金 50億4,000万円
 従業員数 2,145名(連結)
 事業所 本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、
 広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、
 下松事業所(山口県下松市)

役員 (2012年6月27日現在)

取締役会長	三木 啓 史	監査役	宮 本 光 晴
代表取締役社長	田 中 厚 夫	監査役	大 川 邦 夫
取締役常務執行役員	吉 武 潤 一郎	常務執行役員	大 谷 憲 史
取締役常務執行役員	宮 地 正 文	執行役員	浪 岡 貞 之
取締役常務執行役員	坂 本 信 夫	執行役員	田 辺 敏 幸
取締役常務執行役員	外 川 照 義	執行役員	中 野 和 則
取締役執行役員	隅 田 博 彦	執行役員	藤 井 孝 司
常勤監査役	根 岸 保 弘		

東洋鋼鋳グループ

国内

鋼鋳商事株式会社
 鋼鋳工業株式会社
 KYテクノロジー株式会社
 東洋パックス株式会社
 共同海運株式会社
 下松運輸株式会社
 東洋パートナー株式会社

海外

TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD. (マレーシア)
 上海東洋鋼鋳商貿有限公司(中国)
 湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)
 江蘇東洋鋼鋳新材料科技有限公司(中国)

株式の状況

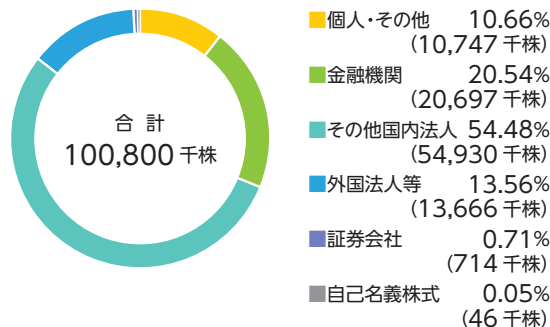
発行可能株式総数 403,200,000株
 発行済株式の総数 100,800,000株
 株主数 3,540名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋製罐株式会社	47,885	47.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,054	4.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,364	3.34
株式会社三井住友銀行	2,980	2.96
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,110	2.09
公益財団法人東洋食品研究所	2,055	2.04
BBH(LUX)FIDELITY FUNDS-JAPAN ADVANTAGE	1,690	1.68
三井住友海上火災保険株式会社	1,680	1.67
株式会社淀川製鋼所	1,429	1.42
株式会社山口銀行	1,316	1.31

(注)持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先) (インターネット) (ホームページURL)	☎ 0120-176-417 http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告方法	電子公告 公告掲載URL http://www.toyokohan.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

お問合せ

証券口座で株式を保有している株主さま	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
特別口座で株式を保有している株主さま	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行株式会社)にお問合せください。

東洋鋼鉄株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
電話 (03) 5211-6211 (代表)
ホームページURL <http://www.toyokohan.co.jp>



本冊子は環境保全のため
植物油インキで印刷しています。



ホームページのご案内

コーポレートサイト



当社のホームページでは、投資家の皆さま向けのIR情報をはじめ、最新のニュースをお知らせする「What's New」、当社の製品を紹介する「身近な東洋鋼鉄」など、さまざまな情報を掲載しております。

<http://www.toyokohan.co.jp>

IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

<http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html>